

諦 崇 寺 報

南無釈迦牟尼仏

曹洞宗では「南無釈迦牟尼仏」とお唱えします。お檀家さまからは頻繁に、「南無釈迦牟尼仏、南無阿彌陀仏、南無妙法蓮華経。この3つは、いったい何が違うの?」とお尋ねいただきます。

釈迦牟尼仏、お釈迦さまは、今から2千5百年ほど昔の4月8日、シヤカ族の王子(幼名はゴータマ・シッダールタ)としてご誕生されました。29歳で出家されて、35歳の12月8日に悟りを得られて仏となられ、インド各地で教えを説かれて、80歳の2月15日に入滅されました。「牟尼」とは聖者という意味です。

御直末認可 辞令伝達式



7月2日に大本山永平寺ご住職、福山諦法禪師さまに拜問しました。諦崇寺が曹洞宗大本山永平寺の御直末である許状を賜りました。

「直末」とは「直接の末寺」という意味です。大阪・栗東寺も永平寺の御直末であり、諦崇寺は平成22年10月に御直末となりましたが、許状を頂戴するのは今回となりました。

併せて「教えを弘めるように」と仏法を説くときに用いる九条の袈裟も賜りました。その重みを私は本当に分かっているのかと自問しながら、これからも精進します。

発行 諦崇寺
編集 藤井崇文
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
taisouji.jp



阿彌陀さまは、お釈迦さまが亡くなられてから56億7千万年後にお姿を現される希望の光、未来の仏さまです。

『妙法蓮華経』は、「私だけでなく、あなただけでもなくて、皆と一緒に仏さまとなっていく」という大乘仏教において「諸経の王」と呼ばれる経典です。

仏教に用いる語句は説明し始めると難しいので、ごくごく簡単に説明しました。

さて、「何が違うの?」とは聞かれますが、私は今まで『南無』はなぜ同じなの?という質問はいただいたことがありません。

これは仕方の無いことでもありません。なぜなら、私たちは何かを理解したり認識したりするときにどうしても「どこが違うか」に目を向けてしまうからです。

たとえば「男と女」と言われてまず思い浮かぶのは、その「違い」であり、「男の人にはおちんちんがあつて、女の人にはおっぱいがあつて」です。ところがDNAのレベルで見れば違いは僅かです。ほとんど同じと言っても良いほどです。

確かに、ほんの少しの違いにも注目するがゆえに私たちの理解は発展しましたが、だからと言って同じ部分から目を背けてしまえば、正しい理解とは言えません。

それでは「南無」とはどういう意味でしょうか?

昔のコマーシャルで小さな女の子がお仏壇の前で手を合わせて、「お手々のシワとシワをあわせて『しあわせー』。」と言っていたのを覚えていらっしゃいますか?

あの純真無垢な姿がまさにそうであつて、「南無」は「帰依する、つまり「でもでも、だつて」などと言いつつ、相手の全てを素直に受け入れる」という意味です。

だから私は、「南無」に続く3つの違いよりも「南無」が同じであることが重要であり、大切であると考えます。

そもそも「南無」が無ければ、その先に「お釈迦さま」がおられるようが、「阿彌陀さま」がおられるようが、たとえ「法華経」があったとしても、話になりません。

先生の言うことを聞くつもりが無いのに、何かを習おうとしても身に付かないのと同じです。

生半かな気持ちでなくて、「言い訳をせずに、相手の全てを素直に受け入れる」準備と覚悟、それが自分にあるのかを問いながら、「南無」とお唱えするのです。

誰かを亡くしたとき、私たちは「今までとの違い」を目の当たりにします。目に飛び込んでくるものばかりが目に入るのではなく、さらに「他には無いだろうか」と探し出そうとします。それは自然なことです。

けれども「今までと同じこと、変わらないこと」も必ずあります。私たちは、そんなことは分かっているのですが、あまりにも「違い」が強烈なので目を奪われてしまい、「同じ」が見えなくなってしまうます。

もしも自分の親が亡くなったとしても、親が亡くなったその瞬間、自分のDNAが変化してしまう訳ではありません。そして、親子という関係性には、何の変化もありません。今までと同じです。



「南無釈迦牟尼仏」と手を合わせるときに「今までと同じこと、変わらないこと」に思いを馳せると心が安らかくなっていきます。

それから仏さまやご先祖さまから褒められたり、叱られたりする。そうして、自分自身がだんだんと安らかな姿となつて、だんだんと仏さまのお姿になっていくことが「南無釈迦牟尼仏」だと考えます。

平成30年7月豪雨

昨年の10月、奈良県の曹洞宗青年会は倉敷市・真備町へ行き、ボランティア活動として土砂かきをしました。私は地元テレビ局にインタビューを受け、「発災から遅くなりましたが、まだ困つていらっしゃる方がいらっしやるので参りました。」と答えました。



あれから一年が経つてのニュースが流れました。災害はとりあえずの復旧が済むと、今度は風化との闘いになります。四六時中、気にかけることは大変ですが、次はボランティアじゃなくても、旅行でも訪れられたらと思います。

あとがき

実弟が3月に永平寺へ上山し、私の晋山式(住職就任披露)で首座を勤めてもらった和尚さんが布教師養成所(5日間を年に3回、僧侶が寝食を共にして、法話を発表しあつて研鑽する場)へ通い始めました。

私が勧めた手前もあり、また令和の新时代に自分も何か始めようと考えて、5月からジョギングを始めました。長らく運動していなかった自分の身体が予想以上に頑張れたり、調子に乗って張り切つたら心まで疲れてしまつたりと、やはり何事も「ぼちぼちとだなあ。」と思ひ知らされています。崇文拝